

令和4年7月26日

教育部美術博物館

弥生時代から古墳時代の建物群跡を確認 —境松遺跡（牟呂町）の発掘調査現地説明会を開催します—

牟呂坂津地区土地区画整理事業に伴い緊急発掘調査を行っている境松遺跡において、弥生時代後期から古墳時代前期（2～4世紀頃）の^{たてあな}堅穴建物跡群や^{どくりつむなもちばしら}独立棟持柱をもつ^{ほったてばしら}掘立柱建物跡などを確認しました。調査成果をお知らせするため、現地説明会を開催します。

■境松遺跡の発掘調査現地説明会

と き：8月6日(土)10時30分～、14時00分～（各1時間程度、雨天中止）
ところ：豊橋市牟呂町字境松地内（豊鉄バス外神バス停より徒歩10分程、別図参照）
内 容：発掘調査で確認された建物跡などについて、間近でわかりやすく解説します。
参 加：自由（現地集合・現地解散）

その他：中止の場合は、当日午前9時までに美術博物館HPでお知らせします。

新型コロナウイルス感染症対策および熱中症対策を講じた上で実施します。

駐車場はございませんので、ご来場の際には公共交通機関をご利用ください。

ポイント① 集落の中核か？ 弥生時代後期から古墳時代前期の堅穴建物群を確認！

弥生時代の境松遺跡は、隣接する若宮遺跡と一体の環濠集落です。その中心に位置する、最も標高が高い場所で堅穴建物群が見つかりました。弥生時代後期から古墳時代前期（2～4世紀頃）のもので、中には1辺7m程の大型のものもみられます。集落の中核となる建物群と考えられます。

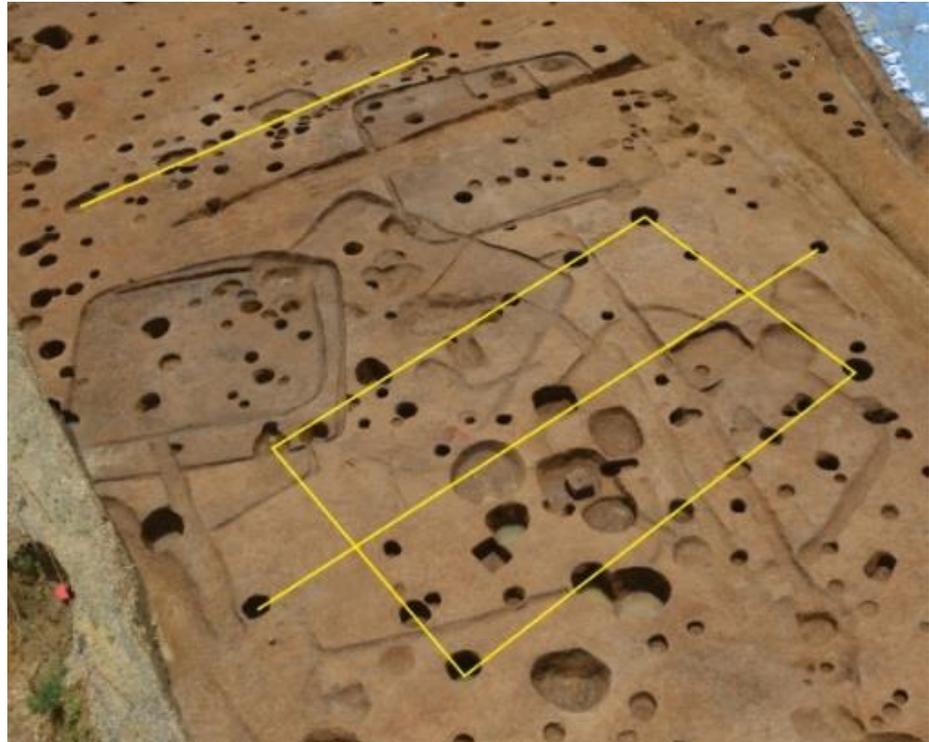


発掘作業中の堅穴建物跡

ポイント②

古墳時代の神殿か？ 独立棟持柱をもつ掘立柱建物跡を確認！

建物の妻側から外側へ突き出た屋根の棟木を支えるために設けられた、独立した棟持柱をもつ掘立柱建物跡が確認されました。地域の核となる大規模集落（拠点集落）跡を中心に類例が見られますが、検出例が限られており非常に珍しい建物跡です。境松遺跡のものは古墳時代前期（3世紀中頃～4世紀）のもので、集落の中心となる神殿の跡と考えられます。その脇には、柵状の柱列も確認されました。



独立棟持柱をもつ掘立柱建物跡

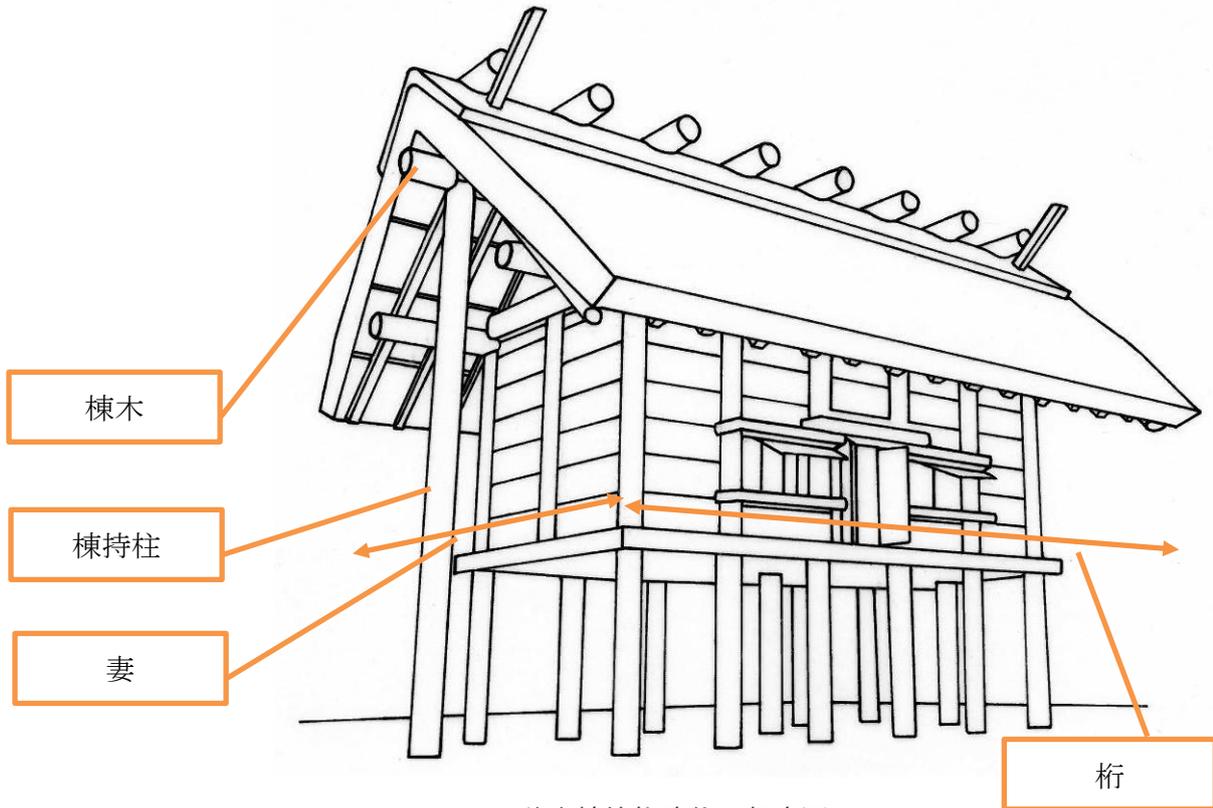
問合先 教育部 美術博物館 文化財センター（電話 0532-56-6060）



【用語解説】

○独立棟持柱建物

建物の妻側側面から離れて柱を立て、切妻屋根先端の棟木を地面から直接支持する柱（独立棟持柱）を有する掘立柱建物。弥生時代中期から古墳時代前期の拠点集落に見られ、近畿地方を中心に鹿児島県から新潟県佐渡島まで分布する。大阪府池上曾根遺跡のものがあり、当時の神殿であった可能性が指摘されている。類似の構造は、伊勢神宮でも認められる。



独立棟持柱建物 想定図

